

# 平成 29 年度 自己評価シート

認定こども園 おりーぶの森

## 1. 教育・保育理念

子どものよりよい成長と発達を願い 子どもには楽しさを 保護者には安心を 第一義に考え  
地域になくってはならないこども園を目指す

## 2. 教育・保育方針

発達を促せるように、一人ひとりを大切にす  
 ・生きぬく力、人のいたみのわかる 子どもを育成する  
 ・自己肯定感、自尊心の持てる 子どもを育成する  
 ・仲間とあそぶことにより、社会的な人格を形成するための基礎を育成する  
 ・自然に触れることにより、子どもの感性を育成する

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み内容	自己評価
職員間の共通理解を図りながら、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、園の理念・方針にしたがい、全体的な計画を編成・実施している。	教育・保育要領を理解し、保育の中でどのように反映させていくかを職員会議や園内研修などの機会に職員間で話し合い、活かしている。	A
指導計画は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、全体的な計画、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	全体的な計画、教育課程をもとに、年間指導計画、月間指導計画、週案等を作成している。その都度、自身の保育を省察し評価することで、子どもの成長や発達、興味関心に基づいた指導計画を作成するよう、努めている。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育をエピソードで記述し、そこから子どもの育ちを的確に捉え、保育を分析している。そして、明日の環境構成を考えたり、かかわり方を工夫したりすることで、さらなる保育の充実に繋げている。	A
各クラスの成果と課題を報告する。	日々のミーティングや月例の職員会議では、各クラスの様子や子どもの育ちを共有し、語り合いを深めることで、職員間の連携とさらなる保育の質の向上に努めている。また、支援の必要な子どもや保護者についての情報を共有することで、職員全体で一貫した支援が行えるよう、心がけている。	A
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	固定概念に囚われることなく、一人ひとりと真摯に向き合い、受容と共感を基本にしつつ、個々の良いところを伸ばしていけるようなかかわりを大切にしている。そして、自尊感情や自己肯定感、ひいては自己効力感の育成に努めている。	A
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	共通の目的を達成すべく、友達と言葉で伝え合いながら、創意工夫したり、試行錯誤を繰り返す姿が多く見られる。今後は、さらなるあそびの充実のために、その都度適切な環境を提供していく必要がある。	B
規則正しい生活習慣の定着、手洗いうがいの定着等に向けての指導を行う。	乳児の時から丁寧なかかわりを積み重ねることで、自らの体を大切にする気持ちを育てている。3・4・5歳児には、看護師による保健指導や歯科衛生士による歯磨き指導を実施している。さらに、保護者にもおたよりや個人面談等で規則正しい生活について協力を求めている。	A

季節の草花を園庭に植える。生き物を飼育する。各コーナーのおもちゃ、絵本の充実を図る。	園庭には、季節の草花が植えてあり、子ども達とは季節の花を育てたり、散歩先で獲ってきた生き物を飼育したりしている。うさぎの世話は、年長組がグループごとに交替で行っている。各コーナーは、子どもが自ら好きなあそびを見つけあそび込めるよう、環境を整えるとともにおもちゃの種類や数量の充実を図っている。	A
行事は、全体的な計画、園の理念・方針を踏まえ計画し、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。	今まで行ってきた行事の内容を大切にするとともに、職員間で振り返り、毎年改善を図り、より良いものにしていくと努めている。行事ごとに、職員間での反省・評価、保護者向けのアンケート調査の結果をまとめ、次年度に活かしている。	B
衛生管理を徹底し、感染症の予防と集団感染を防ぐ。	日々看護師による園舎内のドアノブ等の消毒を行っている。日ごろから、手洗い・うがいを徹底したり、咳の出る子にはマスクの着用を促したりすることで、感染を予防している。感染が見られるクラスにおいては、室内全体の消毒を行っている。また、嘔吐時の処理方法においては、全職員が把握し適切な対応を実践している。	A
特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。家庭、医療機関、関係機関等との密な連携を図る。	特別な支援の必要な園児においては、関係機関や家庭との話し合いのもと、支援計画や指導計画を作成している。そして、長期的な支援を念頭に置いた上で、今求められている発達支援の充実を図っている。	A
小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。幼保小連携研修に参加する。	近隣の幼保小との会議に参加し、積極的に取り込んでいる。また小学校に行ったり、園に招いたりして交流を持ち、小学校へのスムーズな接続を図っている。	B
職員の安全管理の意識を強化する。火災・地震などの災害発生時、不審者侵入時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。防災・防犯マニュアルを策定する。	様々な設定で訓練を行い、全職員が非常時に対する意識をしっかりともてるようにしている。防災・防犯マニュアルを作成し、周知している。	A
園だよりやホームページ等で、教育・保育の状況を伝え、保護者と情報共有を図るとともに、理念・方針への共通理解を図る。	園だより、ホームページではクラスの様子、行事の様子などを掲載している。また、毎日の子どもの育ちをエピソードとして掲示し共有したり、日々の送迎時には保護者と子どもの成長や発達を共に喜び合うよう、努めている。	A
地域の子育て家庭に対して、子育てに関する情報の提供や気軽に集える交流の場を提供している。	週に2回子育て支援「たんぼぼのへや」を、週に1回園庭開放を行っている。様々な活動(あそび)、保護者同士の交流、育児相談、また母親のリフレッシュなど、気軽に集う場所を提供している。	B
教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。また、各研修会や研究会に積極的に参加し、職員に情報提供や資料提供をする。	全職員での園内研修を充実させるとともに、園外研修にも積極的に参加している。学び続ける姿勢を大切に、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。	A
職員の心得を熟読し、職員としての質の向上をはかる。	一人ひとりが十分自覚を持って、子ども、保護者、職員とかわり、当事者意識を持ち、主体的に保育に当たるようにしている。	A

#### 4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則り、おりーぶの森の全体的な計画、教育課程、年間指導計画を作成し、全職員で共通理解・認識を図った。また、園内研修では、全職員で実際の保育中のエピソードを語り合い分析するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についての理解も深め、“子どもの育ち”を全職員で再確認することができた。	B

「3. 4. 」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育日誌の有効活用	保育日誌を書くことで、日々保育を省察し、次の保育の環境構成や展開に活かしていく。
室内、戸外のおそびの充実のための環境づくり	年間指導計画に則ったおもちゃの種類や数量を用意していく。さらに、保育教諭は常に子どもの興味関心を十分満たすおそびについて考え、そのための環境づくりを工夫していく。
各種マニュアルの見直しと整備	一貫した保育が必要と思われる育児(おむつ交換・手洗い・着替え等)手順のマニュアル作成。デイリープログラムやクラスのルール、早番・遅番等の仕事の見直し。
延長保育・土曜保育の充実	朝と夕の延長保育、土曜保育の流れや環境、おそびの充実を図る。